

平成 26 年 8 月 24 日 主日礼拝

礼拝開始: 午前 11 時

愛餐会

司 会 : 小木秀夫兄
奏 楽 : 小島明美姉
いのり : 下岡晶子姉
さんび : 新聖歌 253 「イエスの御腕に」 1. 2. 3 節
主の祈り
聖 書 : ヨハネによる福音書 11 章 1~4 節 (P.157)
(朗読: 大神久美姉)

音 楽 : 倉知 契牧師

メッセージ : 「ありがとう、私のいのち」 倉知 契牧師

賛美 と 献金 : 新聖歌 233 「驚くばかりの」

頌 栄 : ハレルヤ・アーメン (新聖歌 233 のまま)

祝 禱

報 告

【瀬戸ニュース】

- ◇ Welcome!! 皆様を心から歓迎いたします。
- ◇ 今日の昼食は『無料』の愛餐会です。どなたでも。
お持ち寄りのない方もぜひ一緒にください。
- ◇ 来月、9月14日(日)は教会8周年記念ソプラノコンサート。
午前11時~12時半の特別音楽ミサです。詳細はチラシを。
多くの方をお誘いいただきご出席いただければ幸いです。
- ◇ 祈禱会 木曜10時半/土曜掃除10時半/祈禱会11時15分
- ◇ 祝大Aコース ローマ15章~ I コリント5章 Bコース 詩篇107篇~119篇

◇ 次聖日礼拝奉仕者 [平成26年8月31日]

[司会: 大神真伸兄、いのり: 持田樹理姉、聖書朗読: 下岡晶子姉]

[ピアノ: 舘 節子姉 賛美リード: 大神 雄兄

アシスト: 鄭 恵真姉、大神久美姉

[献金: 太田昌子姉、赤塚孝子姉 受付: 加藤和代姉]

◇ PA: 平松章治兄

◇ 週報編集: 片岡洋一兄

◇ ホームページ編集: 大神真伸兄

◇ 日曜学校: 持田樹理姉



「この病気は死で終わるものではない。神の栄光のためである。」

(ヨハネ福音書十一の四・新共同訳)

宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」のモデルとなったのは斎藤宗次郎氏。岩手県花巻市で、曹洞宗の住職の三男として生まれ、小学校の教師になり、内村鑑三の著書を通してクリスチャンになりました。

しかし当時はキリスト教が「耶蘇教」と呼ばれ、迫害を受けていた時代でしたから、彼が洗礼を受けたときから、石を投げられ、理由のない中傷を何度も受け、親には勘当され、教師を辞めさせられます。ついにその嫌がらせは長女の愛子さんにも及び、「ヤソの子」と言われてお腹を蹴られた愛さんは腹膜炎を起こし、わずか八歳で天国に帰っていったのです。

宗次郎はその後、新聞配達をして生計を立てるようになります。重労働の中、彼は肺結核をわずらいます。それでも毎朝三時に起きて、夜九時まで働き、帰りには、病人を見舞い、励まし、慰めます。雨の日も、風の日も、雪の日も休むことなく、地域の人々のために働き続けたのです。普通なら、娘の死を悼み、仕返しをしたいとさえ思うのに、なぜこのようなことができたのでしょうか。彼の歩みには次の聖書のことばがありました。

「あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行いなさい。あなたをのろう者を祝福しなさい。あなたを侮辱する者のために祈りなさい (ルカ 6 の 27 ~ 28)」

その後、宗次郎は東京の内村鑑三のそばで仕えるために上京することになりました。早朝、花巻駅に行くと、迫害していた町長をはじめ、学校の教師や生徒たち、街の多くの人々が見送りに来てくれたそうです。そしてその中に、あの宮沢賢治がいたのです。「雨ニモマケズ」の詩は、宗次郎の愛の姿から生まれたものなのです。

思えば、瀬戸に遣わされて一年半が過ぎました。雨の日も、台風の日も、また大雪の日も、また 37°C の暑さの日も、なんとか休まず通って、ご奉仕することが出来ました。担当牧師として改めて、信徒の皆様にあいさつ、家族のためにも沢山祈っていただき、支えていただいていることを感謝します。全力でお仕えしているつもりでも、失礼な、余計なことを言ったりする、不十分で、愚かな僕をお赦しください。これからも皆様と共に捧げる礼拝に、主の愛とご臨在が豊かに顕わされますようにと祈り続けてゆきます。

瀬戸カルバリーチャペル

倉知 契